

令和8年度 第1回まちづくりミーティング

令和8年7月23日（木）18時30分～

玉川こども図書館

材木、味噌蔵、此花、瓢箪校下（地区）

(1) 市長あいさつ

【村山市長】

平日の夜という大変お忙しい時間帯、お仕事、お疲れの方もいらっしゃると思います。そのような中で、まちづくりミーティングにお集まりをいただきまして、ありがとうございました。

本日は、材木地区、味噌蔵地区、此花地区、瓢箪地区、この4つの校下（地区）での開催となります。4年間で全ての校下（地区）を回りまして、地域での課題について共有し、そして、すぐに解決することが難しい課題もあるかと思いますが、その課題の解決に向けて前進していく。そのためのまちづくりミーティングを開催させていただくこととしております。どうぞよろしくお願いいたします。

(2) 地域代表あいさつ

【味噌蔵地区町会連合会長】

今日は、熱中症の警報が出る中、本当にお集まりいただき、ありがとうございます。

市長さんをはじめ、各局長さんもお集まり、本当にありがとうございます。

市長も2期目に入って、これから考え方が具体化されてくる時期に入ってきたのかと思っております。骨格予算じゃなくて、その次の補正予算のときに市長の思いがあふれているような気がしました。

今日はそういう補正予算その他の大きいお話は別にして、4つの校下（地区）のもう少し身近な話をについて市の方のお考えを聞いていきたい。今ここで正確な話を我々は求めておりません。市長が、各局長さんがどんなふうに考えていくのか。我々のこれからの方方向性が示されるようなお答えを一緒に考えていければと思っております。

本日は、ひとつよろしく願いいたします。

(3) 地域課題の説明、課題に対する市の方針等の説明、

①消防分団の管轄区域の見直し（材木地区）

「地域の課題の説明」、「課題に対する市の方針等の説明」については、レジュメを参照願います。

【材木地区町会連合会】

現在、材木地区を管轄している分団につきましては、第一消防団材木分団、こちらは浅野川よりも西側のエリア、もう一つは第二消防団浅野川分団、こちらは浅野川よりも東側のエリアでございます。

それぞれの管轄区域内の世帯数は大きな隔たりがあり、浅野川分団管轄区域では約280世帯、材木分団その約9倍に当たる2,600世帯という不釣り合いな状況になっています。この2つの分団は、隣接する味噌蔵地区も同じ管轄で、管轄区域全体の世帯数としては、浅野川分団が890、材木分団は4,500世帯ということで、約5倍ございます。

このような状況の中、浅野川分団は現在、団員が極めて少なく、普段の活動も厳しい状況が続いております。管轄区域住民の高齢化が進み、担い手が不足しているだけでなく、現行の住民の負担金を値上げすることも難しく、資材等の維持すら厳しい状況になっております。

この2つの分団が受け持つ区域の大部分は、実は兼六小学校区で、一部、鈴見エリアにつきましては杜の里小学校区ということもございますが、町連のくくりで見ますと味噌蔵地区と材木地区ということでございます。しかしながら、同じ地区でありながら住民の負担額に大きな差が生じている。こうした不公平な状況が続いております。

第一、第二消防団の境界については、設定された当時から既に100年近く経つ現在において、今述べたような大きな弊害が生じております。少なくとも人口減少を要因に小学校を統合した私どものようなエリアでは、同根の問題解決は必然の検討事項で、整理統合に住民の関心が高い今こそこれらを見直す絶好の機会であると考えております。

分団員を確保し、持続可能な運営に道を開くとともに、住民の不公平感を改善するためには、今後のコミュニティの土台となる統合された小学校区を基本とすることが最善ではないか。特に、住民にとって金銭的負担の不公平はあってはならないことで、地域コミュニティ存続において最も大事なことと、地域を代表する者として考えております。

例えば、材木分団、浅野川分団が一つになり兼六分団とする。一つの有効策ではないかと、個人的には思っております。

もちろん、地域として、今後、合意形成を図っていく必要がございます。これまでもこの件が話題に上がるたびに、第一と第二の大きな壁があり無理だと決めつけられて、議論すらできなかったのが現状ではないかというふうに思います。

地域で有効な議論を進めるためにも、その前提として、ぜひともこの消防分団の管轄区域の見直しも可能であると、そういった柔軟な方針をお示しいただきたいというふうに思います。

【川崎消防総務課長】

消防分団の管轄区域の見直しを行う場合については、特に長年にわたって地域で築かれてきた歴史的背景や地理的要因などを十分に考慮した上で、消防分団と地域住民の皆様、そして町会連合会との相互理解と合意を前提とすべきだというふうに考えております。

一律に小学校通学区域と連動する形での見直しは、それぞれの消防分団を取り巻く背景や環境が異なりますことから、なじまない部分が多々ございます。そのため、これまでも小学校の統廃合や通学区域の見直しに合わせた消防分団の管轄区域の見直しが積極的に行われてこなかった実態がございます。

兼六小学校区を分担して管轄する材木分団と浅野川分団は、市内でも特に歴史のある分団であり、双方の管轄区域に木造密集地を有する特殊性や、地震などの大規模災害時における対応を踏まえたと、両分団の存在意義は非常に大きいと言えます。金沢市第一消防団材木分団と金沢市第二消防団浅野川分団との管轄区域の見直しや統合を行うのであれば、こうした歴史的背景や地域防災力の維持という観点を十分に考慮した上で、第一、第二消防団の間における相互理解と合意も不可欠となります。

そのため、管轄区の区域の見直しは慎重に検討を重ねていくことが必要でありまして、市としては、当事者となる第一、第二消防団と両分団の意向も踏まえ、関係する町会連合会内や町会連合会間の相互理解に必要な調整に対して、協力させていただきたいと考えております。

(追加質問①)

【材木町会連合会】

浅野川分団の役員をしております。

現状をお話ししますと、浅野川分団の管轄している全世帯数は887世帯です。ポンプ車

と人員資機材搬送車の更新、市の方針としては、使える限り使ってもいいよ、何年周期での更新というのはしなくていいよということを言われているんですけども、もしその手の機材を入れ替えようとする、今、1世帯当たり800円の負担で賄っていますが、その収入に対して年間出ていくものがやっぱり上回っていき、蓄えを少しずつ切り崩しながら分団の運営をしているという現状でございます。

887世帯で、もし機材の全部入替えも地域でやろうとすると、1世帯当たり、1年当たり3,000円を徴収することになります。年金世帯に800円からいきなり4倍近くの負担を求めというのは、私はナンセンスかなということで、そこはちょっと難しいなというふうに感じております。そういう金銭的な負担がやはり一番大きくのしかかっているという部分をご理解いただきたいと思います。

また歴史的な背景ということで、尾張町の商店の後継者がおらず店を閉じ、観光客向けの店に変わり、地域の人がやっている店ではないことをご理解いただきたい。昔は商店街の旦那衆の息子さんたちが団を盛り上げてくださって、歴代の団長もそういう方がいらっしゃったんですが、今の団長が定年で退職すると、もう次の団員がいません。

これは又聞きの話ですが、市の消防団からは、松ヶ枝分団と一緒にすることを検討してくれと言われたというふうに聞いております。それに関しては、校区も違いますし、町会連合会の味噌蔵地区の会長と材木地区の会長は、今非常にいろいろ連絡を取り合って、密にいろんなことの話を進めているという現状も踏まえたと、実質の運営は、やはり同じ学校の校区で、非常にいろんなことで連絡が取れている地区と一緒に考えていくのが、私はベストかなと思っております。

いろいろな難題も抱えておりますし、住民の合意形成というところも含めて、これからまだ私どももやらなきゃならないことはいっぱいあります。ただ、これは金沢市からもある程度ご協力をいただかないと、正直言って浅野川分団の維持はもう難しくなります。そうすると解散なのか、それか休眠の団体として負担だけが残っていくのか。会計を担当しておりますので、様々なシミュレーションを組むと暗澹たる思いという部分がございますので、積極的にいろんなことで市のご協力をお願いできたら非常にありがたいと思っています、そういう次第です。

【川崎消防総務課長】

今の件につきまして、やはり地域ごとにそれぞれの背景、歴史というのがございます。

ですので、今この場で挙げられています統廃合ということであれば、第一、第二消防団と両分団の意向を踏まえた意見交換の場があれば、積極的に協力させていただきたいと思っています。その場において、将来の人口動態の予測などの客観的データなどを示しながら、当事者間で共有するところから始めればと思っております。

消防団内での機運が醸成された場合は、町会連合会を含めた協議へ移行するなど、市が明確なロードマップを描きながら、論点を整理しながら、目標とする結論、合意形成へと導く役目を担いたいと存じます。

【村山市長】

学校、校区も違いながら、材木、味噌蔵のこの課題については一番難しいんです。

各校下（地区）で消防分団の成り手がいない、世帯数も減ってきている、小規模になったから統合を考えなきゃいけないねという、そういった議論は出てくるんですけども、材木、味噌蔵については、第一消防団と第二消防団があって、その団の中の分団になっているから一番難しいところとなっています。

そうした中で、分団同士だけではなくて、団本部、第一消防団、第二消防団の団本部も交えた話をしながらこの課題をどうしていくか。もちろん人口、世帯数が減少したという背景はありますけれども、そもそもの歴史的なつながりのままの区切りでいいのかどうか、より明確に校下ごと分けるべきなのかどうかということについて、今、地域での課題もある。そして団本部もそういった課題について認識をしていて、一番難しい課題だと思っていますので、市としては必要な調整に対して協力させていただきたいと考えています。遠慮がちな答弁になっていましたけれども、ここは考えなければいけない課題として大きく認識していて、既に団の団長と話をしているところではありますけれども、これから分団も含めて話ができればと思っています。

②都心部の小学校跡地等のまちづくりの活用について（味噌蔵地区）

「地域の課題の説明」、「課題に対する市の方針等の説明」については、レジュメを参照願います。

【味噌蔵地区町会連合会】

都心部の児童数の減少により、小学校の統廃合が図られ、新堅町、馬場小学校、材木、

味噌蔵など、校舎を含め、運動場を含めた空き地が市内に点在しております。そのうち新
堅と馬場のほうは大体用途が決まっています。

ただ、私がここで言いたいのは、前回令和5年のまちづくりミーティングの共通課題と
して市にご意見を求めている、前向きに検討しますよというお答えがあるんです。

「材木小学校の跡地、兼六小学校移転に伴う跡地については、市内横断のプロジェクト
チームを設置し、跡地の有効利用に向けた検討を進めているところです。検討の進捗につ
いては、適宜、地域の皆様のご意見をお伺いしながら取り組んでまいりますので、引き続
きご理解、ご協力をお願いします」ということになっています。

じゃあ何をしているのか。令和5年から約4年過ぎて、この検討内容や方向性が不明の
まま過ぎている。材木、味噌蔵の跡地について何をしているのかが全然漏れてこないまま
に、新堅町、馬場の跡は決まってきた。

というのは、何か我々としては、町の何万平米もある敷地を、そのときのその地域によ
って切り売りをしているように思われる。要望があるから新堅にこういうものをつくるん
だ、馬場はこうするんだ、ではなくて、長町小学校の跡、松ヶ枝小学校の跡をひっくりめ
た都心にある有効な空き地を長い目で見てどうするのか。ああいう何万平米もある敷地
は、もう二度と出てこないわけです。もうちょっと高所、広いところから俯瞰的に見てや
るべきじゃないか。もっと市長が金沢の将来像をどう考えるかということに対して、検討
します、前向きに委員会をつくりますじゃなくて、もっと何か市民に理解できるような方
向性を示した案にしてほしい。それが1年2年遅れても我々は構わないんです。

駅前の近鉄不動産のところからエムザの前、日銀、それから香林坊と、都心軸の話が進
んでいます。ただ、その後ろにある住宅や庶民の生活、そこに対する点在する広大な敷地
を持つ場所を、都市の考え方から、ちょっと場所が外れていると全然考慮に入っていない。
都心軸、金沢市の都心の再生はよろしいんですけれども、我々は都心において生活してい
るわけじゃなくて、その周りの住民として我々をどういうふうに捉えていただけるのか。
その中心となる我々が小さいころに育った金沢方式と言われる校下意識を持つ、そのあた
りの市民の考え方、それに対する金沢全体の考え方をもっと我々に市としてはお知らせを
願いたい。

非常に抽象的な話で、具体的な計画は今のところ求めておりませんけれども、もっと長
い将来、5年、10年、20年、50年。今、建物が建つと50年はもちます。あのときに考えれ
ばよかったじゃなくて、2、3年遅れてもいいから、もっと長期間のスパンのビジョンを

持って我々に示していただきたい。

そのために、今、味噌蔵小学校の跡はどうするんだと。材木町の跡はどうするんだと。長町はどうするんだと。トータル的に我々が理解できるような考え方で市政を進めていきたい、そういうふうに思っております。

【本島都市政策局長】

都心部の小学校跡地というのは、まちなかにあって、大規模かつ今後也得難い本市の希少な財産というふうに思っておりまして、その利活用につきましては、それぞれの立地特性を踏まえつつ、市政を取り巻く環境の変化、また本市のまちづくり全体を勘案しながら庁内横断プロジェクトチームで検討を進めております。

ご質問のあった各小学校跡地の現状について、まず、旧材木町小学校跡地につきましては、このエリアは木造住宅が密集するエリアで、災害対応力を強化すべく、防災広場、また防災道路の整備を進めて、令和9年度中の完成を目指しております。

旧馬場小学校跡地につきましては、不登校児童生徒の増加といった課題に対応すべく、学びの多様化学校、いわゆる不登校特例校として活用することとし、令和10年度中の開校に向け、改修工事等準備を進めております。

それから、旧新堅町小学校につきましては、昨年度策定した基本構想を踏まえて、今年度は地域力創造拠点としての基本計画の策定に向けた取組を進めているところでございます。

それから、旧味噌蔵町小学校跡地につきましては、老朽化が進む金沢健康プラザ大手町の再整備に向けた取組を進めており、地元地域の皆様のご理解を得ながら、まずはこの7月から、工事期間中の仮移転先として利用させていただいているところでございます。

その他、現在、松ヶ枝福祉館として使用しております旧松ヶ枝小学校跡地、また、中央公民館の長町館として活用しております旧長町小学校跡地につきましては、それぞれ建物が築60年以上を経過して、老朽化が著しいということから、今後の在り方について、市としても検討していく、進めていく必要があるというふうな認識をしております。

なお、松ヶ枝福祉館につきましては、今年度、移転、再整備に向けた適地調査を進めていくこととしております。

こうした小学校跡地、小学校ですけれども、地域コミュニティの中心として長年愛されてきた大切な場所でもありますことから、引き続き、取組の進捗に応じて、地域の皆さん

のご意見をお聞きしながら検討を進めていきたいと思っております。

(追加質問・意見①)

【味噌蔵地区町会連合会】

味噌蔵の学校はせっかく耐震もして地域コミュニティとしてはいいと思いますけれども、いろんな諸問題はあると思います。

まず、あそこへ通うにしても、近場の人はいいけれども、道路が片側一方通行のような状態で、高齢化で車も運転しない、歩いていくのもやっぱりちょっとしんどい面もありますし、短期的には大手町の診療所の分所みたいな感じですね。

長期的に見れば、少子・高齢化になることで小学校もなくなることは分かるんですけれども、やっぱり長い目で見て、せっかくある建物を有効活用するようなこともしてほしい。

各地区の圏外の話ですけれども、能登空港ができたときに、あそこの森林を一部、たばこ畑とかいろんな平地に大学を誘致しようという話もあったんですよ。やっぱり金沢は文化のまちで、大学が国公立合わせて5つ6つ金沢にあって、ローカルでは石川県学生が一番多い。

そういうような中で、まちづくりをしながら、学生を流出させないための一つの手段として、少しでも長く金沢のいいところを見せたいということであれば、僕は、大学あたりは、文科省に要請しながら、県とも連携して誘致してもいいと思います。

木造のばたばたの校舎ではなく、まだまだ十分使えます。せっかくある有効的なものを使うということになれば、長期的なビジョンかと思いますが、やっぱり大学あたりを誘致していただければにぎわいになると思います。若い人が集まれば、にぎわいも創出します。やっぱり石川県は文化ですから、文化のいい面を長く伝えていければいいと思います。

大学の生徒さん呼び戻すような政策を、せっかくある場所を利用してやっていく方向も一つの手ではないかなと個人的に思います。

【本島都市政策局長】

貴重なご意見ありがとうございます。

旧味噌蔵町小学校ですけれども、昭和42年に校舎ができて、今、健康プラザ大手町が仮移転して、それがいつ出ていくかになるんですけれども、建物自体は60年を超えてくるで

あろうということになります。だからあの校舎が使える間は使えばいいんですけど、いつまで使えるかというのは、ちょっと私のはっきり言えません。

学生を含めたまちなか回帰ということも担当させていただいております。若者が来るための目的、手段、いろいろあります。活動場所とかいろいろあるので、今日は貴重なご意見をいただいたと思っております。

ただ、味噌蔵町小学校の跡地につきましては、まず健康プラザ大手町の仮移転先としての使用がいつまでも含めて、地域の方のご意見もお聞きしながら、この跡地をどうしていくかということになろうかなと思います。ありがとうございます。

【村山市長】

これは山野市長の時代も含めてなんですけれども、例えば野町の小学校。あそこは今、金沢未来のまち創造館という形で、建物をそのまま残した形で一部リニューアルをして、新しい産業が生まれる場所にしてきました。担い手の方々が結構若い方が多いということで、若い方が入ってくる建物になった。そこでは、のまちJAMと称して夏には夏祭りをを行うような、そういった動きになりました。

宮野保育所の跡地なんですけど、今年5月にオープンして、こどもアート工房みたににしました。子供たちが少なくなって、保育所としての運営が厳しくなってきた中で、森本のほうの保育所3つを統合させていただいたんですけれども、その市立保育所、子供たちがいなくなったから閉所したんですが、今は毎日のように子供たちが集まる場所変わってきています。

東浅川小学校は、人口減少とともに田上のほうの人口が増えてきたことによって、少し東浅川から田上寄りのところの朝霞台に小学校を造りました。その東浅川小学校の跡地については、今年の秋にオープンしますけれども、森と市民をつなぐ拠点施設として、金沢もりづくりベース東浅川という木に親しむ施設としてつくられます。ここの中には、木育、木の大型遊具を使いながら遊ぶことができるような、そんな子供たちが集まることのできるような全天候型の施設ができてきます。

そうした形で、今の世の中に求められるものというのを急ぐことなく、そのときに一番いいもの、そして将来に向けていいものということで、考えてきているという状況になります。

様々な施設を紹介させていただきましたけれども、味噌蔵町小学校について、たまたま

先週、健康プラザ大手町が移転した後でどのように使われているだろうかというように見に行きました。さすがに、つい1年前まで小学生が使っていた場所ですので、今の時点ではきれいな形のままで使われています。ぜひ健康プラザ大手町へ行ってください。場所が変わって、1階のところはちょっと暑いんですけども、2階まで上がって部屋に入ると涼しい空間になっていますので、これまでの大手町にあったところと同じように使うことができますと思います。

見た目はいいんですけども、それでも給排水の設備などについては、かなり老朽化をきてきていまして、水なんかは浄水化、一回きれいにしてからでないと使えないような状況になっているので、ガタは来ているというように思っています。そして、建物の耐震化をしても、耐震化をしたからずっと安心かというと、耐震化の後のまた整備ということも必要になっていくので、そういったタイミングも出てくるかなというように思っています。

今は健康プラザ大手町の仮移転先として使っていますが、その後どうしていったらいいかということのをこれからも意見を聞かせてください。まちなかの大規模な用地は、確かに出てくることは少ないです。一方で、地域のコミュニティの中核として、小学校として使ってきたので、地域の方からも意見を聞きたいという思いでおります。

味噌蔵町は、公用車で行かせていただきまして、学校の正門は車が入れなくて、横をぐるっと回って奥に行かなければいけないような状況でした。そのあたりの交通の便なども考えた上で、そこの周りがまた一方通行ですからどうやったらいいか、交通条件なども含めた上で検討しなければいけない課題というように思っています。

健康プラザ大手町の仮移転というのも、新しいところが建て替えたら、その後の利用の仕方というのは今のところない状況ですので、近い将来という見方をしながら検討を進めていきたいというように思っています。

③防犯カメラの設置及び運営に対する行政支援の拡充について（此花地区）

「地域の課題の説明」、「課題に対する市の方針等の説明」については、レジュメを参照願います。

【此花地区町会連合会】

此花地区、まさしく金沢駅の東口、石川の玄関口にあるわけですけども、新幹線開業

後、大変たくさんの人が集まる、そんな地区でもあります。数年前には、商店街でも防犯カメラを入れたい、そんな話もあったんですけども、防犯カメラを実際につけるということになりますと、どこにつけるのかであるとか、つけたときのプライバシーの問題、さらにつけるに当たってはやはりそれなりに費用もかかる。つけた後についてもランニングの費用もかかるということで諦めた。そんな経緯もございます。

今年になって、やはり非常にたくさんの人が集まって、昼間だけではなくて、夜間も人の住むエリアにまで人がやってくる。そんなような状況が見られるという中で、ある町会で、やはり防犯カメラをつけたい、そんな話が持ち上がったというふうに聞いています。

実際に危機管理課のほうにも行かれて、補助について書類ももらってきて、出そうかというところまで行っていたようですけれども、実際に業者さんに見積りを取ってみると、かなり高額なお金になる。さらに今先ほど言ったような毎年費用もかかってくるということで、結果的には諦めた、そんなようなことがございます。

金沢市全部でそうした防犯カメラが必要かという、必ずしもそうではないと思うんですけども、やはりこうして人がたくさん集まって、最近ではいろんな凶悪な犯罪も全国で起こるという中で、防犯カメラが果たす役割というのは結構大きいものがあるだろうというふうに思っています。

いろんな犯罪なんかも、防犯カメラの映像を基にして解決をするということもニュース等でもお聞きするところがございますので、ぜひそうしたカメラの設置に対して、設置をしやすい、さらには維持をしやすい、そんな方策をぜひお願いしたいということで挙げさせていただいております。

今後考える対策ということで5点挙げさせていただきましたけれども、特に人が多くて、そうした可能性が高いところについては、行政が主体的になって設置をするということもお考えをいただきたいですし、そういうことがない場所でも設置をしやすい、運用しやすい、そういうことがあれば、私ども此花地区も安心して暮らせる町になるというふうに思っています。

此花だけではなくて、そのほかにもたくさん人が集まる観光エリアもございますので、そうしたところも含めてお考えをいただけるとありがたいということが今回の此花地区からの話でございます。

【山下危機管理監】

皆様御存じのとおり、金沢駅は大変多くの方に利用していただいております、年間約1,000万人以上、1,500万ぐらい利用されていると言われております。

また、今後、金沢都ホテル跡地の再開発ですとか武蔵が辻の再開発が進んできると、これまで以上に、より多くの方がこのエリアにお集まりになるだろうということで、私どもとしても、改めて当該地区の防犯については強化をしなければいけないと考えております。日頃から皆さんに防犯をお願いしている立場としても、やはりこの地区は、他の地区と比べても強化が必要と考えております。

現在、こういった公共空間にカメラを市が設置している場所というのが1か所だけございます。具体的に申しますと、片町地区、いわゆる客引きの防止重点地域ということで、石川県警と金沢市がそれぞれ役割分担をして、カメラを設置して防犯体制をしております。

一方で、大変申し訳ないんですが、金沢駅も実は客引き防止の重点地域ですが、これまでカメラを設置しておりませんでした。昨年度から、やはりこの地区にもカメラを含めた対策強化が要るのではないかということで、県警の方と私ども、市長も入って、そういった協議会の場で、今後ここを強化していく。具体的には、防犯カメラの設置も含めてしっかり検討しましょうということで検討しております、できれば今年度中にその方向性を固めて対策を打っていきたいと考えております。

もし、カメラ設置ということになりますと、片町のときもそうだったんですが、地域の方にご相談をさせていただくことになるだろうと思います。先ほどおっしゃられたとおり、プライバシーの問題もありますし、地域がどこで今一番困っているのかというお話を聞かなければいけませんので、もしそういう事態になりましたら、改めて地区へご案内をさせていただいて、検討の際にはご協力をお願いできればと思っております。

まずはカメラを何とか設置できればという方向で動いておりますが、もう一つのご要望の設置の補助、これにつきましては、他地区からも結構いろんなお問合せが来ているところですが、今のところ費用の話でご相談を受けることがあまりないというのが正直なところでございます、引き続き、研究課題にさせていただけるとありがたいと思っております。

いずれにいたしましても、駅周辺は大変重要な場所ですので、しっかりと対策を打っていきたいと考えております。

【古谷経済局長】

観光客などへの守るべきマナーの啓発につきましては、現在、多言語でのマナー啓発パンフレットや動画を作成して、金沢市の観光公式サイトで発信しています。また、県とも連携し、県のSNSにおいても市が作成した素材を活用した情報発信を行うなど、県市一緒になってマナー啓発強化に取り組んでいるところです。

また、本年3月に、市民と旅行者の相互理解促進サイト「金沢たしなみ旅ガイド」を制作しました。観光の地域に対する良い面、悪い影響等をまとめ、市民と旅行者、双方で観光についての課題を共有し、お互いへの思いやりと配慮を促して相互理解を深め、最終的には、市民生活と観光が調和した、住んでよし、訪れてよしのまちを目指したいと考えています。

市としては、引き続きこのマナー啓発、市民と旅行者の相互理解の促進に努めていくこととしています。

地域の皆様につきましては、サイトも用意していますので、確認いただき、お近くの方、また旅行者に問われたときに、周知にご協力をいただけるとありがたいと思っております。

(追加質問・意見①)

【材木地区町会連合会】

私どもの地区では、観音町通りのところも新幹線開通後、ひたくりや置き引きがすごい発生して大変な目に遭ったということで、防犯カメラをぜひ設置していこうということで、市の方の協力をいただいて何とか設置できました。

ただ、やっぱり費用的にかなり高価で、そこは旧町名復活だとかいろいろとその辺の補助をもらったりしている部分で多少助かった面はあると思うんですが、やはり設置に当たっての補助制度みたいなものがあると助かるなというふうには思っており、今お聞きしております。

それからオーバーツーリズムの話がありましたけれども、観音町通りなんかでもよくあるのが、外国人観光客のドライバーが、ルールが分からず入ってきてしまうようなトラブルというのは結構あるみたいで、当てて、そのまま知らん顔して行っちゃうとか、いろいろとあるみたいなんですね。そういったところも、レンタカー屋さんに特に注意喚起を促してもらうといいのかなというふうに思います。

それと、実はうちの地区で空き家に勝手に忍び込んでいるという事案が発生していたということで、そういう意味からも、やっぱり普通の住宅街の中でもそういう防犯カメラというふうな、そんな意見も実は出てきているというところもあります。そういったところも少しご認識いただくといいかなと思います。

【山下危機管理監】

まず、警察と実際どういう話をしているかという、やはりまず金沢市、市内全域につけるのは難しいというお話になってきます。その際に考えているのは、繁華街中心に、警察とまず市がある程度整備していく必要性はあるのではないかなと。長い間、片町にはあったんですが、駅になかったということで、まずここを最優先にやっていこうという流れになっておりますので、できるだけ早く協議をまとめて、皆さんにお話しできるように頑張りたいと思っています。

補助制度も一応あるはあるんですが、つけるに当たって、金額以上にやはりプライバシーの問題ですとか設置場所ですとか、いろんなご相談を実は受けることが多くて、最終的につけるに至る前に、やはりなかなかハードルが高いねと、お金以前の問題が高いねというお話が結構出てきているのも事実でございます。

そういったことも含めまして、もし地区のほうで要るという話になれば、私どものほうでしっかりとサポートさせていただきます。

物価もだんだん上がってきていますので、そういったことは常に把握しながら、予算編成のたびに、補助率、補助額の見直しというのは適時を行っておりますので、そういった意味でも検討はしっかりさせていただきたいと思っております。

いずれにしても、カメラについては、どちらかというと、やはりお金よりも設置に対するハードル、地域の協力をどうやって得ていくか。こちらのほうが大変重要になってきますので、そういった際に、地元で市の説明をしてほしいというお話があれば、私ども職員が出向いてやらせていただければと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

【古谷経済局長】

東山、観音通りは、北陸新幹線金沢開業以降に、観光客にたくさん来ていただきましたし、最近は外国人の方も多くなっています。

お話がありました当て逃げというのは、マナーなのか分かりませんが、外国人の方もかなりたくさんレンタカーを借りられている。借りる際には、ルールをお話していますが、機会を見つけて、レンタカー屋さんにも話をしていきたいと思っています。

日頃より、日本で旅する場合には日本のマナーに従っていただきたいということを外国人の方々に向けて発信する活動をしています。それにより、市民の方々と旅行者が仲よくできることにつながると思っており、このような施策をしっかり進めていきたいと思います。

【村山市長】

学生のまちなか回帰がほかのところで出ましたけれども、その際には、まちなかへ出てきて、まちが危険だから出て行きたくないというようになる、あるいはそういうまちを敬遠するようなことがあってはならないと思っていまして、まちなか回帰検討プロジェクトの中では、危機管理監も入ってもらって、安全なまちにしていけることが大前提であるということ。人がにぎわって風紀が乱れるようではいけないと思っていますし、今の状況からは、少なくともよくしていかなければならないという意識の中で行っています。

加えて、観光については、メディアでは、よくオーバーツーリズムと言われるような観光公害ということを言われてきていますが、決してマイナスの面だけではないと思っていますし、オーバーツーリズムだからもう観光客は来ないでくれというような自治体はあまりない。それは、やっぱり来るからにはそれなりの魅力を感じていただけていて、お金も落としていただけて、地域経済にも効果があるということ。そして、その地域の都市のブランドとして発信できるということ。様々な効果があるというように受け止めています。

そうした中で観光客がこんなに多くて、こんな迷惑をして、だから受け入れたくないというような市民の感情が出てくると、そこは止まらなくなってくると思っていて、金沢市では、観光公害と言われるのは、どんなことが迷惑なのか、そこに対してその原因を潰していくという方向で、今うまく調和が取れるようにということを検討していっています。

市としては直接に宿泊税をいただいているんですけども、それ以上の効果。それは、例えば働く就職先を経済が回っていけば、それだけお店の数、あるいはホテルについても、ホテルで働く方の雇用の確保なども行えていきますので、そうしたことも、いい影響に水を差すことがないように進めていければというように思っています。

④今後の町会運営について（瓢箪地区）

「地域の課題の説明」、「課題に対する市の方針等の説明」については、レジュメを参照願います。

【瓢箪地区町会連合会】

今後の町会運営について、今、町会居住者の減少と高齢化によりまして、単独町会での運営が困難になってきているんじゃないかなということで、特に町会の役員の成り手がなない。例えば我々の町会でも、3人でもって毎年ぐるぐる回しているという、そういうような関係になっています。ほかの町会の方に聞いたら、住んでいる人も少ないし、それから役員になるにしても決まってしまっている。その中で回しているという、そういうような感じで、できたら隣接の町会と一緒に進めていければ助かるかなということをおっしゃられました。

市にお聞きしたいんですけども、我々の町会以外で、校下以外で、そういうような町会の統合とか、それとか他市町村でそういうような例があるかどうかということをお教えいただければと思ひまして、テーマとして挙げさせてもらっています。

【南市民局長】

町会役員の成り手不足、これは本当に人口減少、高齢化という全国的な課題が進んでいる中で、まさにあちこちで見られるような傾向にあります。地域によっては、町会運営に支障をきたす。まさにおっしゃったとおりのことも起きております。

住民が安全で安心に暮らしていくためには、身近な地域コミュニティというものはやはり不可欠でありまして、町会活動が果たす役割が非常に大きく、その持続可能性というものを確保していくということは、本市としても重要な課題であるという認識は持っております。

ご提案のように、隣接町会との統合も課題解決に向けた選択肢の一つとして考えられますし、全国的には、人口減少地域で、複数の町会の合併によって役員の確保と運営の効率化を実現し、地域コミュニティの維持、活性化の取組が進められている、そういった事例もございます。

本市におきましても、実はたまたま材木の町連、今話題に出ました観音町において、実は令和元年に旧町名が復活しまして、東山から観音町に変わりました。当時は観音町1丁目、2丁目、3丁目という3つの町会で復活ということになったんですけれども、この復

活を契機としまして、令和5年に3町会が統合したという実績がございます。この場合、従前からそういった形で、3町会が合同でイベントを行うなど、非常に風通しがよかったことから、特に大きな支障がなく、実現ができたというふうに聞いております。

特に町会の統合を進める際というのは、やはり、これまでの町会の成り立ちや地域の特性といったものも十分考慮する必要がありますし、慎重に協議をしていくという必要もあります。規約の変更や財産の管理をどうするかといったような取扱いを技術的に解決するほか、何よりも住民の皆様の合意を図っていくということが大変重要であるというふうに考えております。そのため、地域の中や隣接の町会との丁寧な話し合いを進めていく、重ねていくということが必要となってきます。

今後、協議を進めていくという具体的なケースが出てまいりましたら、その中での課題やご不明な点などは、市民協働推進課や課内にあります町会連合会の地域コミュニティサポートデスクで相談を受けたいというふうに思っておりますので、ぜひお問合せいただければと思います。

(追加質問・意見①)

【材木地区町会連合会】

今ほどお話がありました観音町2丁目の町会長をしております、合併を経験しております。

合併はいろいろ大変なんですけれども、私から一つ助言したいのは、比較的元気な人がいる間にしたほうがいいかなと。熱量のある人が各町会にいるときにしたほうがいいかなということを一つ助言したい。皆さん、お年を召してからだと、ちょっと大変かなと思いますのでお伝えしようと思います。

(追加質問・意見②)

【味噌蔵地区町会連合会】

1962年（昭和37年）に、住居表示に関する法律の実験として、金沢市の町名がなくなりました。そして新しい町名には、幾つかの旧の町名が集まって新しい町名に変わっております。

それで、新しい町名になったときに、どうして旧町名を統合できなかったのかという一つ疑問があるんですけれども、政府のほうは、それだけ熱量を使ったのに、その後に熱量

を使ってない。

私の町会は、田町という町名だったんです。今現在、天神町1、2、桜町、暁町と4つの町会名があるんです。新しく引っ越してきた人たちが、私、天神町1丁目なのに何で暁町なんですかとか言われるんですよ。そういったことが新しく引っ越してこられた人については分かりづらいかなというふうに思います。

【南市民局長】

どうもご意見ありがとうございました。

いろいろと住居表示をやっていく際には、こういったような課題が多々あったということから、観音町をはじめ旧町名の復活というようなことも取り組んできた次第でございます。

そのあたりについて、町会の合併等の関係で必要なことがありましたら、市民局のほうで対応できればと思っております。

【村山市長】

借りていたマンションの部屋が空いてそこを分譲で買まして、それをきっかけにということもあるし、地域で、公民館、児童館が新しくなったということもあって、これを機会に、町会の行事、公民館の行事などにたくさん参加するようになりました。私は時間を割いてという形ですけども、私の妻がよく参加するようになりまして、そこでの発見というのはすごい大きかったんです。こんなこともやっているのかということも、地域をよく知るきっかけになりました。

それもあって、今年から町会の役員になってやってみたところ、町会で抱えているような課題を大きく認識するようになってきました。

町会をめんどくさいと思う人も多いかもしれないけれども、これだけ多くのことをやっているんだということを知るきっかけができることがまず大事なかなと思ってまして、それがこの時期たくさん行われているようなお祭りであったり、その後の文化祭であったり、あるいは運動会であったり、そうした取組は大事にしていきたいなと思っております。

行政としても、金沢方式の見直しを行って、昨年の4月から制度の改正を行いましたけれども、この見直し、あり方について検討していく中で、町会、町連、児童館、公民館、

消防分団というのは、どういう役割を果たしているんだということについて、各ブロック単位でパンフレットというか冊子を作りまして、それを全戸配布させていただくということを行いました。まだまだ周知が足りてないなというように思いますし、これからも発信をしていかなければならないと思いますけれども、ぜひ地元での広報もどんどん行っていただきたいというように思っています。

そして、町会の合併の話は、先ほど出たとおりですけれども、様々な課題が出てくると思います。ぜひ詳しい話をお聞きいただければと思います。

(4) 共通課題について

金沢方式における補助金算定の運用見直しについて

「地域の課題の説明」、「課題に対する市の方針等の説明」については、レジュメを参照願います。

【材木地区町会連合会】

昨年度、金沢方式における市の負担割合を75%から80%に見直していただいたということに関して、感謝申し上げたいと思います。これは、検討懇話会を通して、人口減少、少子・高齢化、物価高騰などを勘案して、各事業における市と地元の責任割合が見直されたものというふうに理解をしております、一歩前進というふうに受け止めております。

これを踏まえて、現行での補助金算定というものにつきましては、2年前の実績にこの割合を適用して市の負担額が算出されているのではないかというふうに思います。しかし、年間0.3%程度の物価上昇であった2021年度までは、この算定方式でも十分問題は特になかったのではないかと思います、その後の4年間で消費者物価指数は12ポイントも上昇しており、このままでは、単純計算で2年前と同様の事業を展開しようと思うと、6%の値上がり分を我々地元が負担しなければ同じようなことができないという状況にあるわけであります。十分ご理解されているものと思いますが、能登震災、水害、その復旧・復興、そして今の原油高、そういったところから、さらに値上がりが続いています。

このような状況下で、こうした負担は、現状として我々にとっては非常に困難な問題でございまして、事業を減らしていくしかないというのが実情ではないかというふうに思います。このことは、2年後、さらなる補助額の減少にもつながりかねない。どんどん事業が縮小していく悪い循環に陥らざるを得ないのではないかと危惧しているところであるわけです。

そこで、地域が考える対応策としまして、新たな負担割合にはそれなりに納得しておりますけれども、少なくとも算定された金額に物価の直近の変動分を考慮するということは必須のことではないかというふうに考えております。

最近では、物価等の高騰で入札不調も頻発しているというふうにもお聞きしております。同様の課題が金沢方式をめぐる事業にもあることをお酌み取りいただき、少しでも充実した取組を続けていけるようになるためにも、ぜひ補助金算定における運用改善をお願いしたいというところであります。

このことは、金沢方式によるところの運営面、ソフト面ということについてお出ししておりますけれども、それ以外でも、消防分団の分団小屋建設やポンプ車購入といったハード面の費用負担についても、当然、当てはまる課題であるというふうに考えております。見直された負担割合に実質的な額として見合うように強く要望するものであります。

地域コミュニティの根幹を成す金沢方式は、私は全国に誇ることができる独自のルールであり、その金沢方式が健全に施行されるようお願いをしたいというふうに思っております。

【安宅教育委員会事務局長】

今ほど、現状と課題のところの資料を見させていただいて、数字を見れば明らかに上がっていることが目に見て分かると思っています。

説明の前に、まず地区公民館の運営委託料というものがどういう構成になっているかを少しお話させていただきますと、運営委託料は、主事さんとか主事補さんの給料になる人件費と、施設の光熱費などの管理費、そして社会体育大会とか文化祭などを行う事業費というものに分かれています。

そのうちの人件費を除く管理費と事業費については、額が確定しております2年度前の決算額、例えば今年度の令和8年度の委託料で言いますと、令和6年度の決算額に基づいて算出しています。これは、令和7年度に令和8年度の分を予算計上しなくてはいけないので、直近の決算額で分かっている令和6年度の額に基づく形で、それを算定しているということになります。

光熱水費の著しい値上がりがここ何年かあったかと思っています。その際は、令和5年、令和6年、令和7年と、当初予算での対応や補正予算を編成しまして、速やかに委託料の見直しを行うなど、実態に即した対応を行ってきたところであります。

近年の著しい物価高騰が、地区公民館の運営費に非常に影響を及ぼしているということは、グラフを見ても分かりますし、今の状況を見ても理解していきまして、我々のほうも危惧しているところでございます。

引き続き、本市の公民館の運営を支える基盤の強化に向けまして、委託料の算定方法の見直しについても、公民館長さんのご意見も聞きながら検討していきたいと思っております。

(追加質問・意見①)

【材木町会連合会】

金沢方式というのは、本当に全国にもこういう方式はないので、住民一人一人にとっても、地域がいろんな形で自分たちの負担と、それから行政の負担とで動いているということが分かりやすいなということで、これはいいとは思うんです。

ただ、これは材木だけの特殊な事情かも知れませんが、材木分団の小屋を移転しなければならないという部分と、浅野川分団と先ほどの統合というところも含めて、小屋の建設費がものすごく高騰していて、当初に住民に説明していた住民負担よりもはるかに徴収しないととても追いつかないという現状があります。

これは、そう決まったわけではないんですが、浅野川分団ともし一緒になったら、浅野川分団の小屋はまだ新しいし、中で、はしご上りの練習もできるし、いろんなそういうメリットがあるよね、なんていう話も出るぐらいなんです。

それと多分、これはまだ地区でそういう話が盛り上がっているわけではないんですけれども、材木公民館は木造の公民館です。耐震基準を満たしているとはいいながら、これからどんどんまだまだ手を入れるのか、もしくは一回、潰して建て直しをしなければならないのか。

そんな中で、やはり住民の負担というのが次々に増えていく。それを次から次へと住民に説明したときに納得してもらえるのかというのは、町会長をしている立場でいいますと、うちの町会は若い人は少ないので非常に危惧しています。むしろ年金生活者のほうが圧倒的に多くなりつつありまして、町会費を下げてくださいないかということと言われてもいます。

さすがにそれを言われると、ちょっとなかなか難しいなということで、でも、いろいろ考えていかなきゃならないなということを感じておる中で、やはりそういう金沢方式であ

るがゆえに、住民の負担を求めていくという部分に関して、非常に理解を得難い部分がこれからどんどん出てくるのではないかなと感じておりまして、そういった部分も含めて、今現在だけでなく将来的な部分も含めて、今はソフト面でしたけど、ハードのほうはかなり負担が大きくなってくだろうという予測を立てておるものですから、そういうところも含めて、またいろいろお考えいただければありがたいというふうに感じております。

【安宅教育委員会事務局長】

本当にそのとおりでして、いろんな地区からもそういうお話は聞いております。

これからやはり、老朽化してきた、経過年数が長い施設が多くなってくるので、どういう形がいいのかということは、もちろん今も考えていますし、今後も考えていかなくはいけないと思っています。そのような意向がある中で、ぜひともまた地域の皆さんと相談しながら対応していかなくはならないと思いますので、そこはこれからも引き続き行ってまいりたいと思います。

(追加質問・意見②)

【材木地区町会連合会】

私も町会長をやっているとして、補助金の件について町会の人から質問が出てくるわけです。例えば、町会に入っていない人をどうするんだと。町会だけに支払いを求めるのかというような、いわゆる先ほどの年金の話も出ましたけれども、そういう不公平感というんですかね、それがやっぱり出てくるというふうに思いまして、そうすると町会長としても答えようがないということに陥りがちになってきます。

例えば、これも金沢方式のあり方懇談会の中で、町会の加入率の話が出ていましたけれども、今、67%という結果が出ておりますけれども、聞くところによりますと、例えば、広島あたりは50%台というふうになっている。そういうことになってくると、ますます不公平感というのは助長されてくるんじゃないかなというふうに思いまして、ぜひとも補助25%ということではなくて、もっと賜ればありがたいなというふうに思っております。

町会の運営も含めて、少しご配慮いただければなというふうに思っております。

【南市民局長】

おっしゃるように、町会の加入率が全国的に低下傾向にあるといったような状況は市と

しても憂慮しております。こういった場で、皆さん、本当に町会活動をご協力いただいているということは、市にとっても大変ありがたい話ですし、何らかの形で町会への加入を促進していくため、先ほど市長からも話があったように、金沢方式のメリットであったり、こういった使われ方をしているかといったことを紹介するパンフレットを全戸配布したり、町会の加入について転入された方にご案内をしたりといったようなことも進めております。

そういった形で、町会活動が維持できるように、市としても後押ししていきたいというふうに思っております。

【村山市長】

ご懸念をいただきまして、ありがとうございます。

示していただいたグラフを見ると、例えば2020年では、100万円かかっていたものは地元負担が25万円という形になると思います。このままの4分の1の負担という形ですと、2025年の111.9万円では地元負担が28万円で、3万円増えることになります。これを地元負担20%という形に下げたので、結果的に20万円にはなりませんでした、22.4万円になったので、25万円からは下がったのかなと思っています。しかし、それだけではなく、補助基準額や上限額もまた大事になってくるのではないかと思います。

これらについては、今回、消防の機械器具置場の問題、あるいは、ほかの地域では児童館の建て替えなどでも課題になってきました。非常に物価高騰になってきた中で、補助基準額が変わらなかったことによって負担が増えてきたということが課題であると捉えています。

ここについては、現在、内部で検討しておりますけれども、予算編成時期との差ということでは、どうしても2年間のブランクが出てきてしまいます。今後どのようにしていくか、地元の方のお知恵もお借りしながら考えているところです。

そして、ハード面については、25%が20%になった、4分の1が5分の1になったというだけではなくて、例えば、建て替えをするときには解体も伴いますが、解体費用については全額市の負担にしました。そして、長寿命化のための修繕を行う時も、全額市で負担する形に制度を変えさせてもらいました。

金沢方式については、様々な議論がありますけれども、40年以上ぶりにこの制度を改正したということの重みを捉えていただきながら、今のよう物価が急騰しているところで

どうしていくかということは、その都度対応させていただきたいと思っています。

物価高騰がずっと続くのか、先になったら下がるのか、国際情勢の影響もある中で、どうなるか見えてこないところが実際あります。ロシアとウクライナの紛争が終わったら資材が入ってくるのか、あるいは中東情勢がいつ安定化するのかということも関わってくるので、今できていないところでもありますけれども、必ずどこで抑えるかというところはフィックスし、重要な論点として捉えさせていただきながら、この制度をなるべく金沢市固有のものとして長く引き継いでいけるように頑張っていきたいと思っています。

(5) 質疑応答、意見交換

【瓢箪地区町会連合会】

市内の住宅道路、非常に傷んでおります。うちの町会には、ふらっとバスが通っております。その中で、明らかにへこんで自転車が転倒しそうな穴が3つ4つ必ずあります。それは金沢市内どこもそうだと思います。復興・復旧にお金もかかりますし、道路その他、整備、非常に大変だということは重々承知しておりますけれども、今後どういう形で、大々的にやっていくのか部分的な補修で収めるのか、そういうことを含めてお話いただければと思います。

【村山市長】

担当が土木局になりますが、私から答えられる範囲をお答えさせていただきます。

能登半島地震で傷んだところについては、大きな原因として考えられるものは、道路の下に下水が通っているところで、まだそこがへこんだままで直っていないというところがあります。そこも応急処置はしているんですけれども、何回もへこんでいきます。下水道管がしっかりと通らないと、下水道と道路との間にある土が下水に入っていくって、またへこんでいきます。そのままだとどんどんへこんでいくということになりますので、最終的には下水が直らなければいけない。これが直るのが令和9年度中ということで、もう少し時間が全体としてかかります。

液状化がある栗崎については令和11年度までかかりますけれども、そのほかのところは何とか令和9年度中にということで進めています。

これも先ほどあったように入札不調などが続いていて、なぜ入札不調かというと、設計の技師が足りなくなっていて、業者のほうで設計をできない、受注するための入札に応じ

ることができないという状況になっています。何とかこれをなるべく収めていきたいということで、令和10年3月までお待ちいただければと思います。

そのほかの事案については、すぐに連絡ください。というのは、へこんで、そこで事故が起きる。けがが起きる。そうしたことをなるべく防ぎたいと思っています。あちこちあいているのであれば、あちこちの事案をお知らせください。それはなるべく早く、応急的に道路管理課が手当てをしていきます。通報いただければ、何丁目何番地のどこですと言われたら、そこまで行きますし、写真を撮って役所に送っていただいても構いません。事故の危険性、けがの危険性があり、すぐ直したいという気持ちがありますので、ぜひお伝えいただきたいと思います。

【味噌蔵地区町会連合会】

旧味噌蔵町小学校の運動場に、内水面調整の大きな槽が設置されているはずなんです。それで、先ほど若い世代が集うような活気ある場所にしたいという話もありましたが、これだけ災害が多くなるということになれば、防災教育の場所として、小中高、地域の人の災害知識の向上の場所にしてはどうか。

それは、富山にある四季防災館みたいなもの、それから白山市にもそういうところがありますね。そういったものを校舎の跡に建てていただいて、防災意識の向上に努めるような場所にしていただいたらどうかと思います。

【山下危機管理監】

白山市にあるような防災センター、富山にもあります。私も見に行っております。

これについては、石川県が新しい消防学校を造るときに合わせて、県内の防災に係るセンターを造るかどうかも含めて検討していらっしゃると思いますので、それがまず動くかどうかというのが一つ前提にあると思っています。

一方で、今ほど言われた旧味噌蔵町小学校の跡地で、いろんな防災教育をやったらどうだと。ソフト事業があってもいいんじゃないかというご提案については、大変いいお話と思っています。

実際、私どもが各地区へ伺うかがやき発信講座を、年間、能登半島が終わってから大体150件ぐらいお受けをしています。また地区でそういう企画等があれば、言っていれば、私ども土日でも夜でも出て行って、講座を行ったり、いろんな企画の提案から受け

ておりますので、地区でそういうのをやりたいということであれば、しっかりご相談を受けたいと思っています。

あと、実は材木の町会連合会と味噌蔵の町会連合会の会長さんから、いずれも今あそこにある体育館、向かいに兼六小学校ができたので、拠点避難所を一回外してあるんですが、やはり身近な、道路一本渡るのもなかなか大変だよねというのがありますし、材木については水害の関係もあって使いたいというお話があつて、教育委員会と協議をして、使える方向で準備をしております。

そういった意味で、限られた資源でございますので、しっかりと防災にも使っていきたいと考えておりますので、また何なりとご相談いただけると大変ありがたいと思います。

(6) 市長まとめ

【村山市長】

様々な課題についてお話ができて、貴重な場になったかというように思っております。

簡単には解決できない課題とか、あるいは昨今の物価高騰などの時事情勢によって巻き起こされるような課題などもありますけれども、そうしたことも対応していくのが基礎自治体である市としての仕事だというように思っております。これからも各地元の市議会議員の方々、そして町会なども通じまして、様々なご意見をいただければというように思っております。